特集「建設分野の魅力」第29回　積雪地域の除雪作業

未来につなぐ つくるひと・まもるひと

冬のまち 安全担う誇り

道路を覆う雪は美しいが、ドライバーにとっては安全への脅威だ。積雪地域で日常生活を維持するためには道路の除雪作業が欠かせない。その担い手である兵庫県内の建設業者と行政関係者に、作業の具体的な内容、苦労、やりがいなどを詳しく聞いた。

取材協力＝兵庫県建設業育成魅力アップ協議会

道幅が狭く雪の多いところで活躍する除雪ドーザ。小回りが効くのが利点

一般道 積雪15㌢目安に出動

道路の除雪は、円滑な冬期交通を確保するため道路法第42条に基づき実施される。積雪の多い「積雪寒冷地域」では、除雪経費を国が補助する。兵庫県では但馬地域と宍粟市の一部が含まれる。

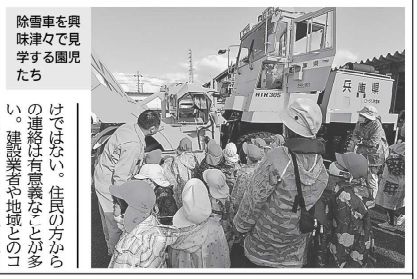
県が管理する一般道路の除雪は、積雪深がおおむね15㌢以上の場合に早朝5時より作業が行われている。但馬県民局の担当は国道、県道880㌔。車道除雪機械179台（業者貸与や委託を含む）が活躍する。期間は12月から翌年3月15日まで。

作業は早朝5時開始
積雪寒冷地域は国が補助

今期除雪期間の初日となる昨年12月1日、但馬県民局3土木事務所（豊岡、新温泉、養父）合同の除雪機動隊発隊式が豊岡土木事務所で行われた。除雪トラック、除雪ドーザ、ロータリ除雪車など計8台が集合し、周辺をパレード。車両見学会もあり、豊岡ひかり幼稚園の園児らが「大きい」「かっこいい」と歓声を上げながら運転席をのぞき込むなどしていた。

昨年12月1日に行われた除雪機動隊の発隊式＝いずれも豊岡市幸町、豊岡総合庁舎

除雪期間初日には発隊式



除雪車を興味津々で見学する園児たち

兵庫県但馬県民局 豊岡土木事務所 道路第2課課長
大石 義徳氏

大石氏 除雪と凍結防止 効果的に

―除雪作業で行政の役割は。

大石　主に情報収集と民間業者への出動要請だ。路面に1㌢以上積雪する可能性があれば早朝、深夜に関係なく出動要請する。雪量観測は、かつては道路の主要ポイント周辺の住民の方に尋ねていたが、今は積雪センサーの機器で観測している。但馬県民局管内では79カ所、うち豊岡が26カ所。職員は気象庁の天気予報をにらみながら、必要と判断すれば当直体制に入る。

中村　住民の方からも通報がある。午前4時ごろが1日で最初の判断となり、通勤通学に間に合うように出動要請する。その後は日中の移動、夕方の帰宅ラッシュ、路線によっては夜間通行の確保が必要。午後10時まで作業してもらうこともある。

大石　職員自身も道路パトロールカーで雪道巡回している。出動要請はタイミングも大事。交通量が多い道路は早めに出動してもらう。晴れているときでも、道幅を狭めたり、交差点などの見通しを遮る雪だまりを除去するため除雪する。

除雪の種類にも新雪除雪、拡幅除雪、氷のような圧雪除去などいろいろある。広い道路は除雪トラック、峠道などは小回りのきく除雪ドーザを使う。路面の凍結防止には塩化ナトリウムを散布する。これは凍結によるスリップ事故を防止するため、路面温度が0度を下回ると予想される場合に散布する。散布と除雪をうまく組み合わせることが大切。

―民間業者との連携が重要なようだ。

中村　本年度の但馬県民局管内の除雪・凍結防止剤散布委託業者は70社。どこも「地域を守る」というプライドを持っている。業者自身が積雪情報を提供してくれることも多い。積雪で道路のマンホールや縁石などの段差が見えない中で誤って壊さないように作業するのはとても難しいという。除雪は地域の道路事情を知り尽くしたベテラン作業員しかできない。経験と使命感には感心する。地元建設業者の力なしに冬の道路を守ることはできない。

大石　かつては地域全体が雪に閉ざされ、通行止めをして一斉に除雪したこともあると聞く。暴雪は災害になりかねない。近年は少雪傾向だが雪が少なくても機械の点検は絶対に必要だ。気を抜けない。

―除雪以外の業務は。

大石　道路第2課は、道路の清掃や除草、橋梁・トンネルなど構造物の修繕など維持修繕業務を担う。地域との接点が多く、インフラを支えているという実感がある。パトロールだけで危険をすべて把握できるわけではない。住民の方からの連絡は有意義なことが多い。建設業者や地域とのコミュニケーションが大切で、仕事の魅力の一つでもある。また、台風や地震後のインフラ関連の災害復旧はわれわれ〝土木屋〟にしかできない業務。使命感をもっての取り組みにやりがいを感じている。

中村　休みでも車に乗れば道路に異常が無いか気になる。石ころ一つでも大きな事故につながりかねない。道路なしに日常生活や経済活動は成り立たない。地味な仕事だが、社会を支えているという自負がある。さらに、道路は管内のどこにでもあるので仕事のエリアも広い。地域ごとの特徴や住民気質の違いを感じることも楽しい。

（本文中敬称略）

道路の端にたまった雪を除去するロータリ除雪車

高速で走りながら除雪できる除雪トラック。長距離にも向いている

中村氏 通勤通学考慮し出動要請

歩道除雪車

株式会社谷垣組代表取締役
谷垣 洋一郎氏

道熟知した技能 不可欠

除雪作業に携わる建設業者として冬期の道路の交通確保は、住民の生活や観光客らの事故防止のため、地域を担う重要な仕事として、使命感と誇りがある。

弊社は、豊岡市但東町内を除雪トーザ3台で除雪作業をしている。建設機械の運転資格さえあれば誰にでもできるという簡単な仕事ではない。雪に埋もれた見えない障害物を傷つけないように、かつ迅速に作業するには、地域の地形や道路の状況、交通事情を熟知したオペレーターの高い技能が求められる。

早朝からの出勤で、夜間まで続く場合もある。冬期は除雪作業だけでなく、道路や河川、砂防などの建設工事もあり、組織としては、人員配置に苦労する。

除雪は民家の玄関をふさがないよう「排雪場」をどこにするか配慮したり、前方確認しながら後続車に影響がないよう絶えずミラーで後方を確認したり、とても神経を使う作業。沿道住民の方からお礼を言われたり、会釈してもらったりすることが励みになる。ただ、地域の建設業者は、担い手不足が多く、後継者確保が課題だ。

最近の建設業界は、給与、休暇、希望の「新3K」拡充を目標に、生産性向上のため、ICT（情報通信技術）の導入が始まっており、職場環境は変わりつつある。

建設業は、インフラ整備の担い手として、また災害時に活動する安全・安心の守り手として、地域に期待される産業。若い人たちには、地元に貢献できる建設業の職種を志していただきたい。